

2025 年 5 月 20 日

各 位

ENEOS 株式会社

「令和 7 年度海洋資源を活用した CCUS に関する調査検討業務」の受託について

ENEOS 株式会社（以下、「ENEOS」）は、国立研究開発法人 海洋研究開発機構（以下「JAMSTEC」）、国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所（以下「PARI」）と共同で、環境省より「令和 7 年度海洋資源を活用した CCUS に関する調査検討業務」（※1）（以下「本業務」）を受託しましたので、お知らせいたします。

本業務は、CO2 吸収源対策としての「ブルーカーボン」の拡大のために、深海域における海藻類の挙動や周辺環境に及ぼす影響等（※2）について調査・検討を行い、海洋資源を活用した CCUS（※3）の推進及びエネルギー起源 CO2 削減に資することを目的に行うものです。

ENEOS は、CO2 吸収源としての期待が大きい大規模ブルーカーボン取組（※4）の実現を目指し、深海における海藻類の挙動把握ならびに海藻類による深海域への影響評価のために潜航を含む船舶調査、炭素貯留量の把握及び影響評価についてのシミュレーションモデルを使った検討等を 3 者共同で行ってまいります。船舶調査では、世界トップクラスの潜航能力（最大潜航深度 6,500m）を持つ有人潜水調査船「しんかい 6500」を活用予定です。

ENEOS は、これまで海草・海藻藻場再生事業においてカーボンクレジット（J ブルークレジット）の認証・取得や産官学連携による大規模ブルーカーボン創出の検討（※5）を進めており、これらの知見を活かし、本業務を通してブルーカーボンの取組を加速します。

<本業務における取組体制>



ENEOS



JAMSTEC



PARI

＜本業務における計画概要＞

深海域での藻類の挙動把握等	「しんかい6500」潜航調査による 動画撮影、サンプリングおよび分析など
深海域周辺環境への影響評価等	マッピング調査、堆積物分析調査など、並びにシミュレーションモデルを活用した分析

＜本調査における取組体制＞

ENEOS	ブルーカーボンの調査・検討を全体総括として推進
JAMSTEC	海洋の総合的な研究開発機関として、深海調査を担当
PARI	ブルーカーボンおよび生態系研究のシミュレーションモデルを活用した分析を担当

＜本業務における主たる使用船舶＞

深海潜水調査船支援母船「よこすか」



©JAMSTEC

有人潜水調査船「しんかい6500」



©JAMSTEC

ENEOS は、Scope1、2 の CO₂ 排出量を 2040 年度までに 2013 年度対比 73%削減、そして 2050 年度までにカーボンニュートラルを実現するという目標を設定しており、自然吸収増加に向けて取り組んでおります。今後も当社はカーボンニュートラル社会の実現に向け、CO₂ の自然吸収増加に向けた取組を推進することで、温室効果ガス排出削減を推進してまいります。

以上

- ※1 [2025 年 4 月 18 日「令和 7 年度海洋資源を活用した CCUS に関する調査検討業務」](#)
- ※2 深海における海藻類の生物による分解や経時的な状態変化や周辺環境に及ぼす影響等について調査・検討し、科学的な知見を収集する
- ※3 Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage の略で、環境中の二酸化炭素を分離・回収し、その利活用や貯留を行うもの
- ※4 2025 年 2 月 18 日に閣議決定された地球温暖化対策計画において、沖合ブルーカーボンには「海藻を生産・育成することで温室効果ガスを吸収し、深海に貯留・固定し、吸収量として算定・評価する取組」として期待が寄せられている
- ※5 [2023 年 12 月 12 日「産官学連携による大規模ブルーカーボン創出の検討開始について」](#)